



岐阜陸上競技協会広報

第8号

令和元年5月1日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp

岐阜で第18回アジアジュニア 陸上競技選手権大会を日本初開催!

7th (Thu) — 10th (Sun) June 2018 Gifu Nagarachawa

第18回アジアジュニア陸上 競技選手権大会特集 2頁～4頁

- ① 岐阜陸上競技協会 会長挨拶
- ② 日本陸上競技連盟 会長挨拶
- ③ 岐阜陸上競技協会 専務理事 大会報告
- ④ 「活躍した岐阜県出身選手たち」

・吉田佳純(駿河台大学)
・山下航生(市岐阜商高)
・稲福 颯(市岐阜商高)

2018年度岐阜 陸上競技協会総括・報告 5頁～16頁

- ① 専門委員会報告
- ② 地区陸上競技協会報告
- ③ 岐阜県・中体連・高体連報告



2018年度の最大事業といえば第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会です。アジア陸上競技連盟からの依頼を受け、日本初開催、

岐阜県陸上史上初の国際大会など話題性の高い大会でした。開催に向けて日本陸上競技連盟、岐阜県、岐阜陸上競技協会の3者が役割分担をして取り組んだ大会でした。日本陸連からは国際大会における運営上の課題についてご指導をいただきました。岐阜県からは開会式をはじめ一校一国運動など大会の盛り上げに多大なるご協力ご支援をいただき、アジア陸連からは「もう一度岐阜での開催を!」との声が出るほど大成功のうちに大会を終えることができました。また、国際大会開催に向けて、かつて経験をしたことのない数々の課題がありましたが、大会実行委員、競技役員、高校生補助員の皆さんの一致団結した機敏な活動によって大会の成功に結びつくことができました。「岐阜陸協ここにあり!」との印象を強く感じた次第です。

大会中プレゼンターとして表彰式に臨みましたがどの選手からもさわやかな笑顔と友好のまなざしをいただきました。陸上競技を通してアジアジュニア陸上競技選手権大会が岐阜の地で一つに

「アジアジュニア陸上競技選手権大会に想う」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 会長 尾藤 義昭

なったなど実感したことを今も鮮明に思い出します。大会には多くの小学生、中学生の皆さんも応援に駆け付けてくれました。アジア各国のジュニア選手たちをはじめ本県出身の3選手の熱戦の姿を見て、陸上競技のおもしろさ、競い合うことの楽しさ、国を超えた友好の輪を広げることの素晴らしさを感じていただけたと思います。この大会を契機に、アジアに、世界に羽ばたくアスリートが誕生することを祈念したいと思います。

最後に、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会の競技運営にあたりご協力ご支援をいただきましたNTOの皆さま、各企業、関係諸機関の皆様にご心よりお礼を申し上げお礼の言葉とさせていただきます。



「第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を開催して」

公益財団法人日本陸上競技連盟 会長 横川 浩

岐阜県岐阜市・岐阜メモリアルセンター長良川競技場を舞台に、昨年6月、日本で初めての開催となる「アジアジュニア陸上競技選手権大会」を成功裏に閉幕出来ましたこと、心より感謝申し上げます。アジア34カ国・地域、627名の選手・役員の参加を得て、四日間にわたった競技会は多くの感動を私たちにもたらしてくれました。

国内で行われる競技会とは異なる大会運営に、戸惑い、迷い、苦労等が数多くあったことかと存じますが、これまでの様々な経験から知恵を絞り、考えを練り、一つ一つ課題をクリアして開催に向け一丸となり準備を進めていけたのは、これもひとえに貴協会だからこそ実現できたものと思っております。

2016年の開催決定から皆さま方と共に過ごした日々は、本連盟としても貴重な経験となり、大きな財産として、この春に控えているIAAF世界ルー2019横浜大会そして東京2020オリンピック・パラリンピック、さらにはその先の日本の陸上界へと受け継がれていくことでしょう。





「第18回アジアジュニア陸上競技選手権を日本の岐阜で開催の意義」

一般財団法人岐阜陸上競技協会 専務理事 黄倉 寿雄

2018年6月7日(木)～6月10(日)の4日間にわたり岐阜・長良川競技場で開催された第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会の概要は次の様な結果となりました。

参加国・地域34、参加選手410名・役員・コーチ217名 競技役員464名(アジア・日本陸連 NTO 岐阜陸協)、ボランティア340名、総来場者数24,400名。

前回のベトナム・ホーチミン大会と比較すると参加国数・選手数が減少しましたがアジア大会が8月に開催されることもあり各国の事情が影響したのではないかと思います。しかし、来場者数は過去のどの大会の数より群を抜いた数となり大会の盛況ぶりを示していると思います。アジア陸連ダーレン会長が日本陸連との交流会で「スポーツ交流を超えた文化交流として意義のある大会となり感謝しています。」同じくニコラス事務局長がフェアウェルパーティで「素晴らしい大会運営に感謝します。岐阜での再会を期待します」と謝辞を述べられたが両氏の言葉からも今大会の成功がうかがえると思います。

競技結果は、並びに岐阜県出身の3選手の結果は次のようでした。

大会新記録5(男子2:400m、円盤投 女子3:3000m、10000m競歩 4×400mリレー)

大会タイ記録1(女子100mハードル)

U20NR 2*U20NR =U20 National Record PB 127(男子81 女子46)

岐阜県選手 吉田佳純(駿河台大) 400mハードル優勝 4×400mリレー優勝

山下航平(市岐阜商) 円盤投3位

稲福 颯(市岐阜商) 砲丸投5位

各国の選手の競技レベルや体格の違いに圧倒される場面もありましたが日本選手団も大健闘をしてくれました。本県出身3選手の活躍ぶりも素晴らしく陸協関係者はもちろん地元ファンを大いに沸かせてくれました。吉田選手は今大会での活躍が評価され8月のアジア陸上競技選手権大会日本代表に選ばれました。アジアジュニアから世界へ羽ばたく夢に向かって一步を踏み出す選手の一人となりました。さらなる活躍を期待したいと思います。

大会には、毎日、岐阜地区を中心とした小中学生、高校生が各校一校一校応援、競技観戦の目的で競技場へ足を運んでくれました。国境を超えた応援が大会を盛り上げてくれたことは言うまでもありませんが、前述した岐阜県出身選手を含む日本選手団の活

躍やアジア選手の活躍に胸を躍らせその雄姿を記憶に留めた人も少なくないと思います。メダルセレモニーにおける会場の一体感と巧みな演出による崇高な時間がもたらす感動など自分に近い世代のアジア各国代表ジュニア選手たちが繰り広げるレベルの高い競技を直に見るにより今まで以上に陸上競技を観戦してもらえる良い機会になったと思います。このような経験を積むことから、将来、岐阜を、日本を代表するアスリートが誕生してくれることを期待したいと思います。そして、その期待こそが第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を岐阜で開催した大きな意義なのです。“小学生から中学生、そして高校生世代に希望やあこがれを持ってもらいたい。”そのためには、良い競技に直接触れて感性で受け止めてもらうことが最善の方法だと思います。そして、その感性を目覚めさせるには、周到注目をしたときに計画された大会の雰囲気、充実した競技施設、競技役員の整然として品格のある競技運営などの環境が必要となります。

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を岐阜で開催するにあたり、日本陸連、岐阜県、をはじめ協力企業の支援を得て長良川競技場の環境を用意することができました。そして、その環境下で岐阜陸協競技役員がぎふ清流国体以来培ってきた競技運営力を最大限に発揮したことが大会の成功につながったと確信しています。

私たちは4日間で非常に多くの体験をしました。国際大会ならではの貴重な体験も数多く苦労もありました。しかし、その苦労は今後の岐阜陸協が行うすべての競技運営の力の源となるものであり、自信に変化していくものと考えます。来年度も日本インカレ、日本パラなど全国大会を控えていますその自信とチームワークで臨みたいと思います。

最後に朗報をお伝えします。日本初開催、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会の成功と岐阜陸協の競技運営の功勞に対し日本陸連から感謝状が贈呈されました。日本陸連として競技運営で感謝状を贈呈するのは初めての試みであるとのことでした。

2018年12月25日(火)日本陸連風間事務局長が来岐され岐阜陸協尾藤会長に手渡されました。(同日、岐阜県にも同様の感謝状が贈られました。)

風間局長から「岐阜陸協の競技運営協力に感謝します。岐阜陸協が素晴らしい競技運営力をもっていることを全国に知らしめる大会となりました。また、東京オリンピックを控えて岐阜で貴重な経験をNTO共々させていただきました。今後とも協力をお願いします」とのメッセージをいただきました。皆様のご努力が報われたことに感謝いたし、謹んで報告をさせていただきます。





「地元だからこそ出せた力!」

400mハードル1位 4×400mリレー1位 吉田 佳純(駿河台大学 県岐阜高出)

アジアジュニア陸上競技選手権大会が岐阜県で開催されることを知ったのは高3の時です。まだ実力が無かった私は、ここで初めての日の丸を背負いたいと淡い気持ちを持つだけでした。だからその目標が叶った瞬間は物凄く嬉しかったです。他の選手にとっては出場している中の1つの試合だったかもしれませんが、でも私にとってはとても特別なもので、誰よりもこの試合に懸ける想いは強かったと思います。その想いの強さを優勝という結果に繋げることができ、1番でゴールできたときは心の底から嬉しかったです。たくさんの方の笑顔を見る事ができて幸せでした。地元だからこそ出せる力がありました。また、自分のホームで日の丸を背負い駆け抜けたあの1周はとても楽しかったです。こうして代表として闘えるように精進していきたいと思っています。

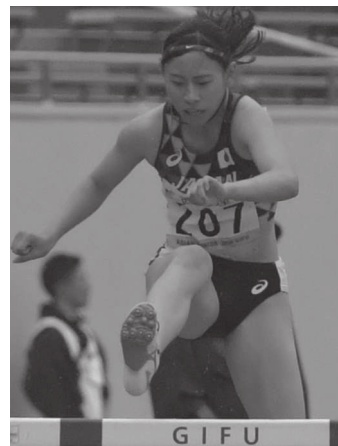


写真 岐阜新聞社提供



「失敗を恐れず全力での取り組みの結果」

円盤投 3位 山下 航生(市岐阜商高)

私が、今回アジアジュニア陸上競技選手権大会に参加して感じたことは、まず大勢の観客の皆さんの下で競技をして、すごく楽しめた自分がいたことです。また、それがとても自信になりよかったですと思っています。

日本陸連から選出された時は正直不安がありました。昨年のタイバンコクで行われた、アジアユース陸上競技選手権大会では、不甲斐ない結果となり、すごく悔しい思いをしました。それを今回のアジアジュニア選手権まで引きずっている部分があり、不安と緊張でいっぱいでした。その中で私はアジアユース陸上競技選手権大会をもう一度振り返る事にしました。何がいけなかったのか、何をすれば成功するのか当時をできるだけ思い出しました。その中で失敗を恐れず、全力でやる事を忘れていた事に気がきました。「成功しよう、成功しよう」と力んでいたのかなと思います。そこで今回は、「失敗してもいいくらい思い切り悔いのないように」を目標として大会に臨みました。その結果最終六投目でリパースに挑戦したことにより、自己ベストの56m51cmで三位に入賞する事ができました。日本代表として、岐阜代表として地元のメモリアルセンター長良川競技場で結果を残せて大変うれしかったですし、自信にもなり競技をやっていた中で一番の試合ができました。

今回アジアジュニア陸上競技選手権大会で得た事を今後の競技人生に生かし、さらに突き進んで良い結果報告ができればいいなと思います。ありがとうございました。



写真 岐阜新聞社提供



「アジアジュニア陸上競技選手権大会に出場して」

砲丸投 5位 稲福 颯(市岐阜商高)

私は六月に行われたアジアジュニア陸上競技選手権大会に日本代表で出させていただきました。結果は、18m10cmで第五位でした。

出させていだきとてもレベルが高く緊張しましたが、楽しくできその時に自身初の18mを超え、壁を破ることもできました。

私自身海外の選手との試合は二回目でした。ですが実際にジャパンのユニフォームを着て試合に出るのは初めてでした。海外の選手を練習場で見、強そうにしか思わなかったです。でも私は、「気持ちで負けたら終わりや」と思い気持ちだけは勝つ気満々でした。

試合当日は、地元開催ということもあり全校生徒と先生達、部活の仲間、ジャパンの投てきチーム等多くの人たちが来てくれました。調子も良く、海外の選手と戦えるということもあったのでとても楽しみでした。試合の終わった後には海外選手との差を感じましたが、応援の方々の目の前で18m投げられたのは良かったです。

アジアジュニア陸上競技選手権大会は終わりましたが、「私がまだ上にいける」「世界の強い砲丸投げ選手と戦える」という夢を叶えるチャンスはまだあります。2020年には東京オリンピックがありますが、このほかにも世界大会はいろいろあります。標準記録は高いとは思っていないのでこの冬期で成長して大学一年から大記録を出して、世界一になります。頑張ります。



写真 岐阜新聞社提供

専門委員会報告

総務委員会総括

2018年度は6月7日から6月10日までの4日間「第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会」が日本で初めて岐阜県で開催されました。初めての国際大会を運営することで、多くの経験をすることができました。その中で特に特徴的な業務にCIDがありました。競技場を離れ、各選手宿舎での6日間に亘る長時間の業務であり、初めて体験する慣れない業務内容に大変神経を使いました。華やかな競技場の雰囲気、全く感じる

ことはできませんでしたが、国際大会を支える上で重要な任務であり貴重な経験となりました。大会成功の陰で、CIDを担当していただいた審判員の方々に感謝いたします。

本年度は9月12日から9月15日までの4日間「日本学生対校陸上競技選手権大会」を開催します。この大会を成功させることにより、また一つ競技運営力が向上できるように頑張ります。

平成30年度 受章者 一覧

○公益財団法人 日本陸上競技連盟表彰

栄 章	氏 名	所 属
高校優秀指導者章	坂谷 幸紀	県立飛騨高山高等学校教員
中学優秀指導者章	伊藤 充貴	大垣市立小野小学校教員
高校優秀選手章	山下 航生	岐阜市立岐阜商業高等学校
中学優秀選手章	前田 海輝亜	中津川市立坂本中学校

○少年少女陸上競技指導者表彰 (安藤スポーツ・食文化振興財団)

栄 章	氏 名	所 属
安 藤 百 福 章	竹内 茂寿	土 岐 お り べ

○一般財団法人 岐阜陸上競技協会 表彰

栄 章	氏 名	所 属
功 勞 章	高橋 恭二	岐阜教員クラブ岐阜(教員)
	脇田 篤実	若 鮎 クラブ 岐 阜 (教 員)
	鳥村 正美	若 鮎 クラブ 岐 阜 (教 員)
	國島 洋	岐阜教員クラブ岐阜(教員)
	久川 直之	若 鮎 クラブ 岐 阜 (教 員)
	高井 繁喜	岐阜障がい者アスリート(教員)
	石田 仁	大 垣 陸 友 クラブ (市 議)
	勝川 誠	岐阜教員クラブ東濃(教員)
	厚見 徳和	土 岐 走 友 (公 務 員)
	渡邊 卓哉	岐阜教員クラブ東濃(教員)
	楓 順吾	土 岐 走 友 (会 社 員)
	村上 寿雄	土 岐 走 友 (会 社 員)
	長谷川 悟	土 岐 走 友 (公 務 員)
	板屋 雅則	吉 城 走 友 (会 社 員)
	鎌倉 誠	下 呂 市 陸 協 (会 社 員)
	牛丸 眞司	吉 城 走 友 (公 務 員)

章	選手名	所属	大会名	種目	記録結果	
勲功章	吉田 佳純(2)	駿 河 台 大	アジアジュニア	400H	58.43	第1位
	稲福 颯(3)	市 岐 阜 商 高	全 国 総 体	砲丸投	18m14	第1位
			U20日本選手権	砲丸投	17m76	第1位
特別勲功章	山下 航生(3)	市 岐 阜 商 高	アジアジュニア	円盤投	56m51	第1位
			全 国 総 体	円盤投	58m02	第1位
			U20日本選手権	円盤投	58m38	第1位
			福 井 国 体	少年共通円盤投	52m59	第1位
小椋章 (最優秀選手章)	山下 航生(3)	市 岐 阜 商 高	福 井 国 体	少年共通円盤投	52m59	第1位
	多和田 旭(3)	大 垣 商 高		少年共通110mH	13.31	第1位
	間宮 里菜	ア ク ト ス		成年女子棒高跳	4m00	第1位
加藤章	吉田 佳純(2)	駿 河 台 大		成年女子400H	58.46	第2位
	堀 優花	パナソニック		成年女子5000m	15.55.47	第8位
田口章	澤村 太星(2)	岐大附属中	全日本中学校 陸上競技選手権 大会出場	4×100mR	予選43.74 準決43.26 決勝43.90	第6位
	舘野 峻輝(3)					
	中島 康佑(3)					
	後藤 大門(3)					
	川口 和花(3)	大垣西部中	全日本中学校 陸上競技選手権 大会出場	4×100mR	予選50.17	
	北島 真千(3)					
	東名 明紅(2)					
	内山 実南(3)					
記念章	山下 航生(3)	市 岐 阜 商 高	アジアジュニア	円盤投(1.75kg)	56m51	第3位
			全 国 総 体	円盤投(1.75kg)	58m02日本高校新	第1位
			福 井 国 体	少年共通円盤投(1.75kg)	52m59	第1位
			U20日本選手権	円盤投(1.75kg)	58m38日本高校新	第1位
	稲福 颯(3)	市 岐 阜 商 高	全 国 総 体	砲丸投(6kg)	18m14	第1位
			U20日本選手権	砲丸投(6kg)	17m76	第1位
	多和田 旭(3)	大 垣 商 高	福 井 国 体	少年共通110mH(0.991)	13.31	第1位
			U20日本選手権	110mH(0.991)	13.62	第3位
	前田 海輝亜(3)	坂 本 中	全日本中学	四種競技	2918	第2位
新記録章	中田 寛乃(3)	愛知教育大	東 海 学 生	やり投げ	56m14	
	金子 春菜(4)	中 京 大	西 日 本 学 生	やり投げ	55m66	
	矢橋 寛明(4)	中 京 大	東 海 選 手 権	100m	10.3	
	市野 泰地	R O B U L E	全日本実業団	800m	1.48.28	



(委員長 内田 匡俊)

財務委員会

2018年度を終えて

本年度年は岐阜陸協において記念すべき年となりました。第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会においては、競技会運営に携わった岐阜陸協競技役員1,600人、高校生補助員1,700人の力により、成功裏に終わりました。競技役員の協調性や団結力、補助員の汗や笑顔に、一人一人が想い合いの心で感謝したいと思います。



—— 良き思い出は 岐阜陸協の財(たから)です。——

(委員長 奈波 宏和)

審判委員会

【2018年度を振り返って】

1 はじめに

2018年度も4月から毎週どこかの競技場で競技会・記録会がありました。県内・県外問わず小学生からベテランまで多くの競技者が参加してくださり、陸上競技人口の多さに喜びを感じているところです。競技会を支える審判員のみなさん、協力していただいた学校関係者のみなさん、補助員のみなさんのお力で、どの競技会も大きなトラブルもなく無事開催することができました。ありがとうございます。年間30日以上、審判活動をしてくださる方もみえます。毎週ありがとうございます。

今年度S級昇格者は、川瀬巧さん、宇野雅浩さん、高橋恭二さん、駒形直人さん、大堀幸康さんです。おめでとうございます。これからもよろしくお願いします。

2 世界で認められた岐阜県の審判員!

何といっても今年度は、2018年6月7日(木)～10日(日)の4日間長良川競技場にて第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を無事開催することができました。開催に向けて何度も打ち合わせを行ったり、各部署の連携を図るリハーサルを行ったりと準備を整えてきました。また、TD・ITOをはじめ、国際スターターや国際写真判定員などの国際審判員、日本陸連からも多くの審判員が来岐しました。自分自身もですが、大会当初は緊張といつも通りでよいのかという不安があり、審判活動に硬さを感じました。第1日目トラック競技の第1レースからスタートのやり直しがあり緊張がさらに高まりました。続く女子400m予選でもトラブルがありました。TDからは審判員の動き方に疑問の声があがり、直接指導を受けました。しかし、普段からやるべきことを確実にやってきた岐阜陸協の審判の方々は、各部署の連携を密にとりながら競技に向かい、何のトラブルもなく全日程を終えることができました。TDやITO、日本陸連の方からはお褒めの言葉をいただきました。また大変満足をして帰って行かれました。世界や日本陸連の方達と共に審判活動を行う中で、岐阜陸上競技協会の審判力を見せることができたと思っています。ありがとうございました。お疲れ様でした。そして今後ともよろしくお願いします。

3 2019年度に向けて

2019年は7月にジャパンパラ、9月に日本学生対校陸上競技大会(インカレ)が長良川競技場で行われます。東京パラリンピックに向けての大会、2019度の学生王者を決める大会です。大会開催に向けて、競技規則の理解、競技規則の変更をよく確かめ、準備を進めていきましょう。4月からの競技会ではリハーサル(部分的を含む)をしていく予定です。

今後ますます「見せる競技会」が期待されてきます。競技者がパフォーマンスを発揮しやすい競技会、観客として見ていて楽しい競技会を作っていく必要があります。そのために、まずは4月から始まる競技会で各部署連携を取り合って、「どうするとよいのか」を意識しながら頑張っていきたいと思います。みなさんよろしくお願いします。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

【2018年度 総括】

2018年度は岐阜陸協が主催する21の競技会運営と、その他の競技会において運営協力を行いました。

主催競技会では、競技力向上・記録更新に向けた選手を運営面からバックアップしました。長良川競技場はもちろん中津川、多治見、中池、浅中の各地区での開催を含めほとんどの競技会で円滑に競技運営できました。参加競技者の数も増え、長良川では補助競技場を利用したの予選レースや記録会を実施しました。機器の不具合で競技進行が遅れ、競技者および競技役員の皆様にご迷惑をおかけしました。今後の競技日程作成や準備段階での点検や人的手配等により対応できるようにしたいと思います。

運営協力した競技会では、6月7日～10日に日本で初めて開催された第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会は国際競技会を運営担当する競技団体としての実力が試される

場面でした。小さなトラブルはいくつかありましたが、概ね円滑な運営ができ、改めて岐阜国体等で培った岐阜陸協の運営力の高さを関係諸団体および参加競技者に示せたのではないかと思います。

2016年度からスタートした小学生登録を受け、強化・普及100m・普及記録会と強化記録会において50mと100mの小学生種目を設定し、広く県内小学生の参加を募りました。参加小学生にはできるだけ長良川のマイン競技場での競技を経験してもらうことができました。今後も普及委員会・強化委員会と連携を取り、タレント発掘・育成の場としても発展させていきたいと考えています。

2019年度も皆様からのご意見を参考にしながら、競技力向上はもちろんのこと会員の皆様に陸上競技を「楽しんでもらえること」を目標に、よりよい競技会運営に取り組んでいきたいと思っています。

(委員長 川瀬 巧)

強化委員会

【2018年度 総括】

2018年度は岐阜県陸上界にとって大きな飛躍となった一年でした。岐阜メモリアルセンター長良川競技場で国内初開催となりましたアジアジュニア陸上競技選手権大会において、本県からは3名の選手が日本代表として選出されました。女子主将を務めた吉田佳純選手(駿河台大学、県立岐阜商業高校出身)は女子400mハードルと女子4×400mリレーにおいて見事優勝を果たし、日本に2つの金メダルをもたらしました。また、男子円盤投に出場した山下航生選手(市立岐阜商業高校)が銅メダルを獲得、同じく男子砲丸投に出場した稲福颯選手(市立岐阜商業高校)も見事5位入賞を果たしました。地元開催となった国際試合で、臆することなく見事に力を出し切った3名の選手の姿は、後輩たちに大きな刺激を与えたことと思います。彼らに続き日本を代表する選手が育ってくれることを期待すると共に、強化委員会としても彼らに続く選手を育てることが今後の使命と感じております。大きな活躍をした3名には、ジュニアのカテゴリのみならず、今後シニアのカテゴリにおいても日の丸をつけて活躍してくれることを期待しております。

さて、今年度の強化委員会の事業の中で最も大きな変革と言えば、『国体代表選手選出に伴う派遣標準記録の設定』ではないでしょうか。強化委員のメンバーで議論を重ね、代表候補選手として派遣標準記録の設定、選考試合の優先順位の設定等、国体代表選手になる為のより細かな条件を設定させていただきました。狙いの1つとして、『選考の透明化』が挙げられます。全国高校総体や日本選手権と比べ、国体に関しては選手の選定が強化委員会に委ねられております。これまでは選ぶ側も誰を選んだらいいのか、また選ばれる側もどうしたら選ばれるのか、少し乱暴な言い方をするとお互いにとっても曖昧な状況があったと思います。派遣標準記録を設定することで、選手側も国体代表選手となる為の記録を意識することに繋がると考えました。

2つ目の狙いは、上に挙げた『記録への意識』です。国体の中心選手は主に高校生となりますが、このカテゴリにおける最

大目標は全国高校総体となります。中学、大学では全国大会に出場するにあたり標準記録を突破する必要がありますが、高校のカテゴリでは勝ち上がり方式を採用している為、年度、また地域によって種目のレベルに大きな差が生じています。多くの高校生選手の目標が『全国高校総体に出場したい』であり、そこに記録の具体性が示されていません。目標設定を数値化し、より具体性をもって練習、日常生活に取り組むことが競技力の向上に繋がるものと考えました。現場からは賛否両論様々な意見をお聞きしましたが、良くも悪くも『記録を意識する』ことに繋がったことを考えれば、この施策は成功と考えています。陸上競技は1cm、1秒を争う競技です。選手のみならず、指導者も記録への意識を持つことが、競技力の向上には必要だと考えております。

来る翌年の東京五輪では、標準記録制度とワールドランキング制度の2制度が導入されると先日IAAFより発表がありました。世界の陸上競技も大きく変化してきております。強化委員会も、これまでのやり方に囚われず、より柔軟に、変化を恐れず、2019年度も活動していきたいと思っています。

(委員長 品田 直宏)

普及委員会

【2018年度を終えて】

現在県内には、小学生の所属選手が10人を下回っているような団体から、100人を超す団体まで、約40の団体があります。それぞれの団体で、小学生のアスリートが練習を積み、岐阜県小学生陸上競技選手権大会には、多くの選手が参加をしています。しかし、コーチの方に話を聞くと、活動拠点としている場所まで遠方から通っている選手がいるようです。陸上競技の力をつけるために、あるいはチームの雰囲気や活動方針がよくて遠方から通っている選手や住んでいる近くに陸上競技の団体がないために、遠方から通っている選手もいるようです。陸上競技をやってみたいと考えている小学生は、まだまだいると考えられます。そんな思いをもっている小学生が一人でも多く陸上競技

の楽しさに触れることができるよう目標に活動しています。今年も普及委員会では、岐阜、西濃、東濃、飛騨、美濃、可茂の6つの地区に分かれて、1年間に10回程度の練習会を行うことを目標に活動していきます。地区の実態もあり、練習会の開催時期が不定期であることや同じ場所で活動することが難しいのが現状です。詳しくは、各地区の普及委員にお問い合わせ頂ければ幸いです。小学生の時に地区の練習会に参加した児童が、中学生となり地区の練習会に参加する生徒もいます。また、大人となって指導者として関わって頂いている方もみえます。岐阜県の陸上競技をさらに盛り上げていくために、地道ではありますが今年も活動が続けていきたいと考えています。

昨年度は、第18回アジアジュニア陸上選手権大会が岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催されました。地元岐阜県出身の3人の選手が大活躍をし、大会を大いに盛り上げてくれました。今年度は、7月にジャパンパラ、9月に日本学生陸上競技対校選手権大会と全国規模の大会が岐阜県で開催されます。小学生や中学生の時に全国規模の大会を見ることは、たいへんよい経験になります。近年、岐阜県で全国規模の大会が続けて開催されています。トップアスリートの動きを直接見ることができるチャンスを生かし、刺激を受けて欲しいと思います。

そして、全国小学生クロスカンтриーリレー研修大会や全国小学生陸上競技交流大会、あるいは全日本中学校陸上競技選手権大会で岐阜県の選手が活躍することを期待しています。

(委員長 岸 栄二)

駅伝・道路競技委員会

【ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会が盛んに開催】

第10回ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会は10月21日実施されました。大会当日は、快晴で絶好のコンディションに恵まれ10区間のうち、5区間で新記録が誕生。今大会は10回記念という事で、過去最多の21市8郡が参加し白熱したレースが展開されました。瑞浪市が高校生の活躍により、第1区から4区まで首位、5区で一時2位に後退するも6区に再び首位に立ち、その後の選手も安定した走力で、昨年優勝の下呂市に約2分の差をつけて初優勝を飾りました。2位には、昨年優勝の下呂市、3位には多治見市、郡の部では揖斐郡が2年ぶりに2回目の優勝、2位は羽島郡、3位には不破郡が入賞しました。

第11回大会は10月20日(日)に開催予定ですが、念願の30郡市すべてのチームが参加できるよう関係機関に働き掛けたいと思います。

★委員会活動

年2回(6月・11月)会議を開催し、清流駅伝、各地区開催の駅伝・ロードレース等の運営面等の様々な問題点を協議・研究をしております。



(委員長 馬場 保)

記録・情報処理委員会

【年度総括】

1 情報処理機器の充実

アジアジュニア陸上競技選手権大会開催のため、岐阜メモリアルセンター長良川競技場の情報機器が更新・追加された。おかげで情報機器を扱える審判員の数に、情報機器の数が追いついてきました。国際大会や全国大会を引き受けてもレンタルの部分が減りました。県レベルでの大会でも、全国大会並みの競技運営が行なえるようになってつつあります。今後もうまく活用していき、日頃の競技会だけでなく、大きな大会にも備えていきたいと思っています。

2 国際大会・全国大会の経験

昨年のアジアジュニア陸上競技選手権大会、毎年開催するぎふ清流ハーフマラソンをはじめ、ここ数年で大きな大会をいくつも経験できたことは我々にとって大きな強みになりました。今年度、開催する予定のジャパンパラ、日本インカレでも今までの経験を活かし、慢心することなく取り組んでいきたいと思っています。

3 次世代のメンバー育成

今年度は新たに情報処理部長と記録部長を任命します。理由は大きく2つあり、①今までの経験を次世代に伝えていくこと、②新しい意見を取り入れ競技運営の方法を変革していくことを想定しています。今まで4年間の任期中、新しいことに挑戦してきたことで得た成果も県内で共有できるようにしていきたい。新たなメンバーを加え、活発に意見を交わし、スピード感をもって対応していけるよう努力していきたいと思っています。

4 公認記録申請100%達成

2019年2月の全国競技運営責任者会議で2018年12月31日時点の公認記録申請100%達成陸協として岐阜陸協の名前が上がりました。県陸協だけでなく、県内で開催された地区や郡市町村、関連団体の公認競技会も含んだ結果であります。記録・情報処理委員会としては、達成すべき大きな目標の1つ。まずは1年、皆さまの努力で達成できたことに感謝を申し上げます。全国標準も90%を超えるなど、他の都道府県も100%達成に取り組んでいます。来年以降も続けていけるようがんばりましょう。

(委員長 山下 和行)

施設・用器具委員会

【2018年度 総括】

昨年は競技役員の皆様方が結集してアジアジュニア陸上競技選手権大会を成功裏に終了出来た事を先ず以ってお礼を言わなければなりません。

今年度は7月にジャパンパラ大会・9月には日本学生対校陸上競技選手権大会(全日本インカレ)が開催されます。

長良川競技場芝生内に従来の倍近い散水栓を埋設する工事も完了し、3月21日には日本陸連から検定副委員長の福島さんと県内の検定・技術員の松田、堀の両名で、クラス2の検定を受けました。今年開催する全国クラスの大会も心置きな

く開催出来る事と思います。

アジアジュニア陸上競技選手権大会の開催で、今迄になかった器具、用具も全国大会を開催しても恥ずかしくない超一流の器具類が備わった競技場になっています。

2019年度からはこの素晴らしい器具、用具を競技役員でしっかりと使いこなせるように研修をして行きたいと思っています。

今年度には、高山市中山公園陸上競技場・土岐市総合活動センター陸上競技場・岐阜経済大学(岐阜協立大学)陸上競技場・大垣市浅中公園陸上競技場の検定更新年になっています。

2020年度には各務原市総合陸上競技場及びぎふ清流ハーフマラソンコースの検定更新年です。県及び該当市と連絡を取り合って不足器具などの予算を計上して戴くようにお願いして欲しいです。期間に余裕をもって予算請求も必要になると思います。

新年度から、施設・用器具委員会は競技委員会に統合される予定ですが、私も先輩諸氏と共に協力して頑張っていく所存です。競技役員の皆様方の協力無くしては成り立たないと思いますので、皆様のご協力をお願いします。2年間おりがとうございました。

(委員長 杉山 美生)

女性委員会

【2018年度 総括】

女性委員会の主な活動は託児室の開設です。小さいお子さんがいて、審判依頼があってもなかなか出席できないのではないかとということで平成25年度より始まりました。30年度は5競技会8回開設しました。前年度より引き続き来室しているお子さんたちもおり、仲良く遊ぶ姿が見られました。託児室は子どもたちにとって憩いの場となっています。30年度はのべ人数にして9名のお子さんを預かりました。29年度と比べ半数に減少しました。これには小学生となり巣立った子たちがいたということです。

有資格者の保育士さん、学生ボランティアの皆さんがとても上手に子どもたちと対応していただけたので、子どもたちも安心して楽しく過ごすことができました。保護者の方も審判の空き時間に子どもさんの様子をみに来られましたが安心して再度審判に行かれました。女性審判員の子どものみだけでなく、男性審判員からの依頼もあり皆さんのお役に立てたのではないかと思います。

審判員の子どものみだけでなく、岐阜県登録で競技会参加選手からの依頼にも対応していきたいと考えています。

小さいお子さんがいて競技会から離れているという方も多くみえると思いますが、親子共々陸上競技を楽しむつもりで参加していただけたといいのではないかと思います。子どもたちも試合に興味を持っています。

今、女性審判員が少ないのが現状です。陸上競技に興味がある女性が多く参加できるような方法がないかと考えています。そのひとつの活動が託児室の開設です。

また女性競技者に対して援助も考えていますが、具体化していないのが現状です。皆さんのご意見を取り入れていきたいと考えています。



(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

医事委員会の活動報告と今後の課題

設立後4年を経過した本委員会は、関係各位のご理解とご協力があり、充実した活動ができたこと感謝しております。

今年度も、競技会への医師・看護師派遣と競技会におけるトレーナー活動を主に行ってきました。4月のぎふ清流ハーフマラソンにおいては、大会本部やメモリアルセンター事務局と連携し、救護活動の一翼を担いました。救護者の役割については、課題が残り来年度に改善していく予定です。6月の第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会では、日本陸連医事委員会からの指導・助言のもと「スタジアム救護活動」を行いました。トレーナーのスキルアップを図ることができ、大きな収穫となりました。7月の第82回岐阜県陸上競技選手権大会においては、「トレーナールーム」開設と「スタジアム救護」活動を行いました。2日間で、約160名の利用があり、活動が定着してきたと思います。熱中症も心配されましたが看護師と連携し適切な対応ができました。医事委員会トレーナー部の認知も上がり、怪我の発生があった時もトレーナーがいるという認識が競技役員に浸透しており迅速な対応に繋がりました。今後も多くの大会でトレーナー活動をアピールし、より良い救護や競技運営に尽力していきたいと思っています。

また、福井国体では、事前合宿からトレーナー3名が帯同し、選手をサポートしました。選手のコンディショニングを整えることが主な役割ではありますが、メディカルアンケートの実施など新たな取り組みも行いました。課題もありますが継続していきたいと考えています。

最後に、医事委員会の根幹に関わるものですが、アスリートに対して貧血対処法やドーピング対応など、より専門的な観点からアプローチしていく必要があると思います。そのために、岐阜県スポーツドクター協議会とも、今まで以上に連携を密にしていきたいと考えております。選手目線での活動を少しでも模索していくことが必要であると思います。今後も、さらなるご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

【2018年度 事業報告】

1 事業の実施と変更

(1) 広報誌6号発刊(5月)

- ・2018年度後期号(活動報告と総括)
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会案内
- ・東濃地区陸協記念事業
- ※県陸協ホームページアップ完了

(2) 広報誌7号発刊(8月)

- ・2019年度前期号(事業計画・展望)
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会準備報告(概要)
- ※県陸協ホームページアップ完了

(3) アジアジュニア陸上競技選手権大会特集増刊号変更(8月下旬)

- ・経費削減と作成負担の軽減のため8号との合併号に変更とする。
- ・変更については第2回理事会にて提案し了承を得た。

(4) 広報8号発刊(2019年4月下旬発刊予定)

- ・2018年度後期号(活動報告・総括)と
アジアジュニア陸上競技選手権大会特集号との合併号とする。
- ※県陸協ホームページアップ予定

(5) 岐阜陸協ホームページ広報誌掲載形式の変更

- ・記録情報委員会の協力により携帯からも
閲覧可能な形式に変更となった。

2 活動報告(2019年1月15日現在)

平成30年度

2月1日	広報委員会 6号・7号・増刊号検討会議29・30年事業計画案検討
3月14日	広報委員会 6号1次校正
4月12日	広報委員会 6号2次校正
5月10日	広報委員会 6号発送業務・7号発刊準備会
5月12日	中部実業団大会にて6号配布
7月4日	広報委員会 7号1次校正 ・アジアジュニア陸上競技選手権大会増刊号準備会
7月11日	広報委員会 7号2次校正 ・アジアジュニア陸上競技選手権大会増刊号準備会
8月19日	第2回理事会にてアジアジュニア陸上競技選手権大会 ・広報8号合併号変更了承
8月22日	広報委員会 7号発送準備
8月25日	県ジュニア陸上にて7号配布
11月14日	広報委員会 アジアジュニア陸上競技選手権大会 ・8号準備・9号検討
11月27日	広報委員会・アジアジュニア陸上競技選手権大会 ・8号準備・9号検討

2019年

1月15日	広報委員会・アジアジュニア陸上競技選手権大会校正・編集
2月下旬	8号原稿依頼
3月初旬	広報委員会 8号1次校正
中旬	広報委員会 8号2次校正
4月中旬	広報委員会 8号発刊・発送

広報委員会事業計画の見直し(2019年9号より実施)

(1) 広報誌発刊号数の変更

- ・年間発刊号数を1号とし、前年度総括・本年度活動計画
・展望等を中心にまとめ発刊とする。但し、2019年度は該

当年度活動計画・展望とする。

- ・発刊期日は県選手権開催期日を目標とする。

変更の事由

- ・経費削減と作成負担を軽減し、内容の充実を図る。
- ・原稿執筆者等の負担軽減を図る。

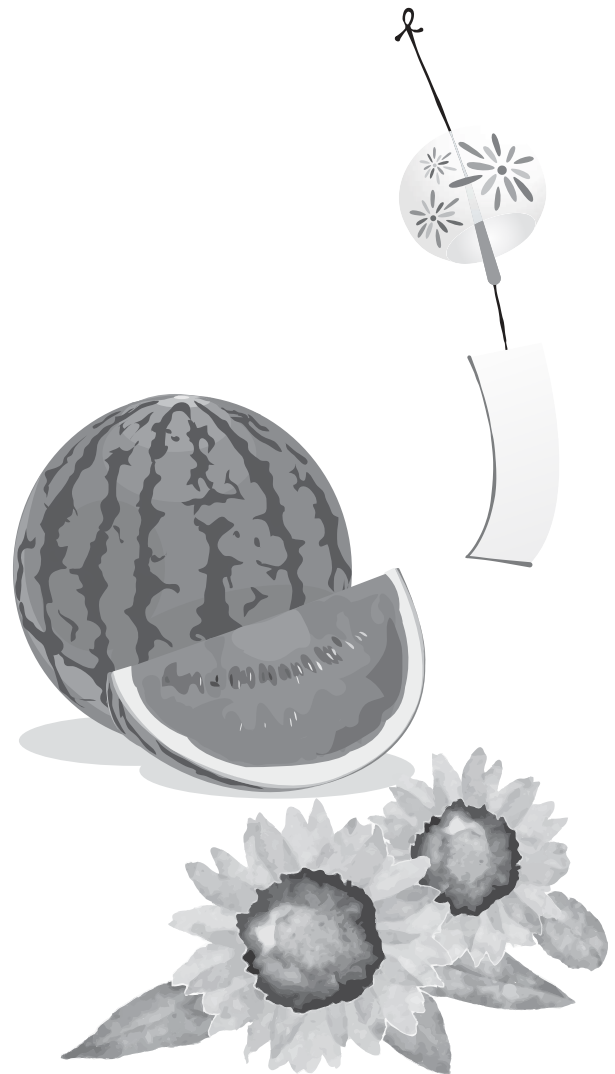
(2) 広報誌発刊部数の削減

400部(県内外送付・陸協関係300部＋一般会員80部＋
保存20部とする)

変更の事由

- ・バナーへの広報誌送付の打ち切り。

(委員長 木下 克己)



各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

第2回岐阜地区陸上競技選手権大会

第2回岐阜地区陸上競技選手権大会を9月9日(日)岐阜メモリアルセンター長良川競技場にて、小学生271名・中学生319名・一般高校210名・合計800名の参加で、新たに種目を増し(400m・800m)参加者も増え大会新記録が19も出て、盛大に開催することができました。同時に小学生を対象に記録会も行い盛大のうちに無事終了することができました。各優勝者と記録会1位は次の皆さんです。

一般高校

種目	男 子		女 子	
100m	所 京佑 (岐阜アスリート)	10.90	吉田 萌々 (県岐阜商高)	13.46
200m	戸崎 暢介 (岐阜アスリート)	21.73	地崎 泰絵 (県岐阜商高)	26.01
400m	大牧 功 (県岐阜商高)	52.61	柳原 里奈 (各務原西高)	1:07.4
800m	尾崎 康佑 (県岐阜商高)	1:59.50	江口 真琴 (岐阜工高)	2:29.54
1500m	堀 京太郎 (ぎふMC)	4:20.19	加藤 愛結 (県岐阜商高)	4:46.59N
4×100m	加納高	43.39	本巣松陽高	54.95
走幅跳	小谷 謙斗 (岐阜聖徳大)	6m94	戸本知可子 (本巣松陽高)	4m80
やり投	日比野愛生 (羽島高)	49m13	伊藤 優希 (MIX)	40m58

中学

種目	男 子		女 子	
100m	館野 峻輝 (岐大付属中)	11.42N	廣瀬 小愛 (島中)	13.68
200m	館野 峻輝 (岐大付属中)	23.39N	薫田 ひかり (鷺沼中)	28.52
400m	渡邊 匠海 (羽島中)	56.20		
800m	清水 稜太 (関桜ヶ丘中)	2:08.28	上田 彩華 (羽島中)	2:34.78
1500m	豊島 寛規 (羽島中)	4:22.57N	前出 心美 (島中)	4:56.62N
4×100m	岐大付属中	44.42 N	島中	54.00
走幅跳	大洞 伸悟 (島中)	5m81	棚田 殊加 (岐阜清流中)	4m46
砲丸投	泉 雅也 (岐大付属中)	9m58 N	北村 佑芽 (加納中)	9m56

小学

種目	男 子		女 子	
100m	恩田 大空 (たかとみ)	14.17 N	加藤 琉琴 (各務原陸上)	14.59
800m	藤崎功太郎 (各務原陸上)	2:41.52	藤原 夢叶 (精華スポーツ)	2:43.03
4×100m	たかとみA	56.36 N	島陸上	58.02 N
走幅跳	小森 章右 (瑞穂陸上)	3m95	鈴木 みお (各務原陸上)	3m77
ジャベリックボール投げ	片岡 恭俊 (精華スポーツ)	40m74	和田 陽菜音 (各務原陸上)	31m25

記録会

種目	男 子		女 子	
50m	今井 純平 (穂積陸上)	9.00	岩田 千聖 (各務原陸上)	9.47
100m	城所 悠太 (各務原陸上)	16.46	中井 蒼菜 (たかとみ)	16.22
混合4×100m	たかとみB			1:02.98

N=NGR

今後の課題

参加者が昨年よりも増し、特に小学生・中学生の参加者が増加したが、一般高校が減少した。また、次回に向け実施種目を一般高校・中学・小学とも多くして、全体の参加者を増やしたい。将来的に全種目が実施でき、競技力の向上・地域の活性化につながるよう一步一步前進したい。

トピックス

岐阜地区から多くの各栄章受章者がでました。

公益財団法人日本陸上競技連盟高校優秀指導者章を、本巣陸上クラブの吉村優治さんが、高校優秀選手章に山下航生(市岐阜商)君が、国民体育大会の席で受章されました。

一般財団法人岐阜陸上競技協会功労章を、高橋恭二(岐阜教員クラブ岐阜)さん・脇田篤実(若鯉クラブ岐阜)さん・鳥村正美(若鯉クラブ岐阜)さん・國島洋(岐阜教員クラブ岐阜)さん・久川直之(若鯉クラブ岐阜)さんが受章されました。特別勲功章を、アジアジュニア陸上競技選手権大会円盤投げ第3位、全国高校総体・円盤投げ優勝・日本高校新樹立、福井国体少年共通円盤投げ優勝、U20日本選手権円盤投げ優勝・日本高校新樹立の山下航生(市岐阜商)君が、勲功章をアジアジュニア陸上競技選手権大会400mH優勝の吉田佳純(駿河台大・県岐阜商高出)さん、全国高校総体・砲丸投優勝、U20日本選手権・砲丸投優勝稲福 颯(市岐阜商)君が、小椋章に福井国体少年共通円盤投げ優勝の山下航生(市岐阜商)君、福井国体成年女子棒高跳び優勝の間宮里奈(アクトス・県岐阜商高出)さんが、加藤章に福井国体成年女子400mハードル第2位の吉田佳純(駿河台大・県岐阜商高出)さん、田口章に全日本中学4×100mリレー第6位の岐阜大学附属中学校(澤村太星君・館野峻輝君・中島康佑君・後藤大門君)が、記念章に山下航生(市岐阜商)君・稲福 颯(市岐阜商)君が、新記録章に東海選手権100m10.30(+1.9)の県新記録



▲高校優秀指導者章を受章された
吉村 優治さん

を樹立した矢橋寛明(中京大・県岐阜商高出)がそれぞれ受章しました。岐阜地区から多くの栄章受賞者が出ました。地区の競技力がUPしました。これも、中学校・高等学校の指導者・関係者の成果だと思います。今後この現状が続くこと、もっと向上することを期待します。

(理事長 正村 菊雄)

東濃地区陸上競技協会

2018年度 総括

東濃地区陸上競技協会の2018年度の主な事業について紹介します。なお、競技会については一部のみの紹介で、紙面の都合上割愛させていただきます。

4月8日(日)

・東濃地区審判講習会 脇田岐阜陸協審判委員長を講師として迎え、セラトピア土岐3階会議室にて実施

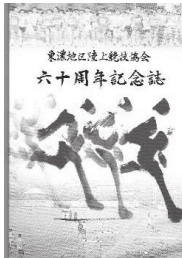
・今年度は会場の都合で救急法講習会は中止した。



4月30日(月)

・「アジアジュニア陸上競技選手権大会PRイベント」を多治見運動公園星ヶ台競技場にて開催

・大島 めぐみさん、清田 真央選手を講師に迎え陸上教室やSKE48から3名が参加し、トークショーも行われた。



7月に入り、ようやく念願の「東濃地区陸上競技協会60周年記念誌」が完成した。資料がなかなか集まらず、あちこちの伝をたどって集めていった。東濃陸協としては初めての記念誌なので今後、区切りの年に次の記念誌を発行し、さらに充実していくことを期待している。

西濃地区陸上競技協会

2018年度の事業を振り返って

1 思うこと

まじかに迫ってきた東京オリンピック、パラリンピックに向け色々のスポーツに対して関心と期待が膨らむ中、とりわけ水泳、陸上、柔道、卓球、サッカー、野球、体操競技など日本中が、その活躍と成果を願っているところです。

今、国内で世界のトップレベル級と言われているアスリートの年代をみると10代(高校生、大学生)が多いのに驚くばかりです。その理由には食べ物、生活様式、科学的トレーニングなど幾つか有と考えられますが、やはり子供のころから基本的な運動を効率的、総合的に取り入れて練習しているのが大きな要因ではないかと考えています。これには、<陸上競技>の果たす役割が一番重要であると思うのは(私一人では無い)と認識しております

2 西濃駅伝40回大会にて終了

さて、本題にはいりますが西濃地区陸上競技協会主催、主管として各種大会を行ってまいりましたが参加選手も増加傾向にあり盛況に運営できたのではと自負致しております。

こうした中、伝統ある「田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会」

10月13日(土)

・恒例の「第19回中部実業団陸上競技選手権大会兼多治見フェスティバルが開催された。今年もMVP賞(男女各1名25万円)や敢闘賞(男女各2名5万円)を目指して全国から優秀な選手がエントリーし、熱戦を繰り広げた。東濃の中学生、高校生にとっては一流の選手の活躍を目の当たりにしてよい刺激になったことであろう。

11月18日(日)

・「第65回中山道東濃駅伝競走大会」兼「第6回岐阜県駅伝競走選手権大会」開催

前回からの変更点…道路事情や最近の参加チームの傾向から次のように変更して実施した。

(1)大学の部の新設

(2)スタート位置の変更

①一般Bを恵那市スタートに②女子・中学男子・中学女子を土岐市スタートにそれぞれ変更した。

(3)土岐市から多治見市間の大幅なコース変更

1月20日(日)

・「第40回東濃ロードレース大会」開催

一般・高校の部の8kmから小学生・ジョギングの部3kmまでを12部門に分け、総勢350名が参加した。今回から(株)TYK様の協力を得て、スタート横断幕を新調した。



(理事長 安藤 功二)

が先般第40回をもってファイナルランとなり一抹の寂しさも感じられました。この大会は昭和55年に大垣市総合体育館の完成を記念して始めて以来40年もの長きにわたって開催され県内はもとより中部各県より多数の皆様にあ愛された大衆駅伝でした。これまで長きにわたり大会を支えてくださいました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。



(理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

2018年度 総括

中濃地区の近年の課題は、中学生及び高校生の競技人口減少と審判員の高齢化に伴う競技役員減少です。このことは、各種大会運営等に支障を来すようになってきました。

2018年度の試みとして、地区陸協、地区高体連、地区中体連との連携により各種大会の運営を行ってきました。高体連地区大会において中学生の記録会を同時開催とし、大会役員の確保と役員にかかわる経費の捻出を行いました。中体連地区大会及び地区協会主催の年2回の記録会においては、高体連の先生に競技役員のお手伝いをいただきました。このように三者の連携を行うことにより競技役員同士のコミュニ

ケーションが図られ、スムーズな競技運営と高度な審判業務が可能となりました。また、競技者が減少する中で、各地域の小学生クラブの活動が今後の中濃地区陸上競技の発展に大きく寄与するものと考えます。

中濃地区においては、美濃加茂ジュニア、相生陸上クラブ、中池スポーツクラブ、美濃ジュニアなどが活発に活動を行っております。各クラブからは全国大会などで輝かしい成績を残すクラブ員が排出されていることは非常にうれしいことであり、指導者の皆さんを含め関係者の皆さんに心から敬意を表したいと思います。今後は、各クラブ同士の交流の場を持ち指導者の資質向上とクラブ員相互の友愛を図りたいと考えております。

(事務局長 渡邊 宗治)

飛騨地区陸上競技協会

2019年度 活動報告

【年間活動計画】

※各競技会に向けてのプログラム編成会議(約2週間前に実施)

月	期日	曜日	大会・競技会名	会場
5	3~4	木・金	第41回:飛騨春季記録会 兼県高校総体飛騨地区予選会	中山陸上競技場
6	2・3	土・日	各地区の陸上競技大会(高山市、飛騨市、下呂市)	各地区の会場
	16	土	第47回:飛騨地区中学総体陸上競技大会	中山陸上競技場
7	8	日	第66回:飛騨地区体育大会陸上競技大会 ※荒天のため中止とする	中山陸上競技場
	8	日	第24回:飛騨地区スポーツ少年団交流会 ※荒天のため中止とする	中山陸上競技場
	14	土	第68回:飛騨地区高校総体陸上競技大会	中山陸上競技場
9	1	土	第3回:飛騨地区陸上スポーツ少年団記録会	中山陸上競技場
	1・2	土・日	第50回:飛騨選手権大会	中山陸上競技場
	23	日・祝	第11回:岐阜県民スポーツ大会(陸上競技大会)	中山陸上競技場
10	8	月・祝	第40回:飛騨地区秋季陸上競技記録会	中山陸上競技場
	14	日	第67回男子・第35回女子・飛騨地区高校駅伝競走大会	古川町森林公園
	20	土	第26回:飛騨地区中学駅伝競走大会	中山陸上競技場
11	18	日	第55回:飛騨駅伝競走大会	古川町森林公園
			※各地区における駅伝競走大会、マラソン大会等	各地区の会場
12	15	土	陸上スポーツ少年団:指導者懇談会	高山ビッグアリーナ
1	12	土	各専門部:部長・副部長会議	高山ビッグアリーナ
	27	日	第4回:理事会	ひだホテルプラザ
3	16	土	代議員会(平成31年度:要覧・記録集配布)	高山ビッグアリーナ

この他に、年間を通して「練習会」「技術講習会」「長距離強化合宿」等が、各地区陸協・中体連・高体連が中心となって企画・実施されています。

また、随時競技場の用器具点検も行っている。(基本的には大会毎に実施)

『ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会』に向けての下呂市の取り組みについて

今回は、今年度10回目を迎えた見出しの大会に向けての、下呂市の取り組みについて紹介したいと思います。下呂市は今年度までの全大会に出場し、常に4位以上という好成績を残しています。特に第8回のこの大会において念願の初優勝を果たしたことは、まだ記憶に新しいところです。そこで、下呂

市ではこの大会に向けてどのように取り組んでいるのか、紹介したいと思います。

この大会に向けて中心となっているのは、「下呂市陸上競技協会」の役員や強化担当の会員などです。どのような段取りで選手選考を行っていくかなどを検討し、大会当日を目指していきます。

選手選考に当たって小学生の場合、スポーツ少年団員に関しては、各種競技会の記録を参考にして選考しています。また、6月の「下呂市陸上競技大会」の長距離種目の記録も参考にして、下呂市内全小学校にこの駅伝競走大会への参加を呼びかけています。その後、選考された小学生の皆さんに集まってもらい、最終選考会を実施して選手を選びます。

中学生については、各中学校の顧問の先生方の指導に委ね、各種競技会の記録や合同練習会等の実態を参考にしながら選手選考を行っています。

高校生については、益田清風高等学校の顧問の先生や部員さんに強力な支援をいただいております。今回までの素晴らしい成果を収められているのは、この益田清風高等学校の皆さんの力があったからこそと言っても過言ではありません。

一般の部については、会員の中で普段からトレーニングを積まれている人や、「KYB金山(株)」の社員の皆さんの協力も得て、その中から選考させていただいております。

こうして選考されたメンバーで「下呂市選手団」を編成し、前日のコース試走、大会本番に臨んでいきます。今までこの大会で好成績を収めることができていく大きな要因は、下呂市の小学生から一般までの選手層が厚く、その皆さんが快く協力してくださったことにあると考えています。来年度からもこのような取り組みを続け、上位入賞(願わくば“優勝”)を目指して頑張っていきたいと思っています。(以上の情報提供者は、「下呂市選手団:監督」の中島佐重喜氏でした。)

(理事長 新屋 幹男)

関係団体(協力団体)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

「2018年度の中体連取り組み総括」

1 今年度の振り返り

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて、強化選手を毎年、選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」「生活」「仲間」を大切にして取り組んでいます。また、チーム岐阜(選手・スタッフ)としての意識をもって日々活動しています。

今年度の岡山全中では、31名の選手(リレー人数も含む)(全国大会参加標準記録突破)の出場になりました。結果については、坂本中学校の前田海輝亜君が四種競技で準優勝、110mハードルで8位入賞と2種目で表彰台に上がりました。また、中山中学校の石本涌大君が800mで5位入賞(県中学新記録)、金山中学校の野村治平君が200mで5位入賞、岐大附属中学校の男子4×100mで6位入賞と、5つの全国入賞を果たすことができました。東海中学では、金山中学校の野村治平君が200mで優勝(県中学新記録)中山中学校の石本涌大君が800mでの優勝を筆頭に個人種目20名の入賞者とリレー1種目の入賞という結果を残すことができました。

また、ジュニアオリンピックでは、39名(リレー人数も含む)の選手が出場し、島中学校の前出心美さんがC800mで4位入賞、八幡西中の櫻井希美さんがジャベリックスローで8位入賞という結果を残すことができました。

2 中体連の取り組みについて

(1)指導者の意識改革

今年度は、原田 隆史氏(原田教育研究所 代表)をお招きして、「選手育成の理念及び具体的手法」という内容で岐阜県の中学校の陸上競技指導者研修会を開催しました。県内から約40名ほどの顧問の先生が参加し、陸上競技を通しての選手育成や、各中学校の練習風景をビデオで交流し、その場でアドバイスを頂き、お互いの中学校で具体的にどんな指導をしているのか学び合う機会を設けることができました。私自身もこの研修会に参加させて頂き、とても刺激をもらいましたし、やはり指導者の意識改革や覚悟が必要ということを改めて感じました。また、強化選手の育成としても、ネームプレートを作成し、今どの段階に選手の意識があるのかを把握し、選手一人一人のカルテを作成し、各ブロック長が選手の状況を確認につかみ、各中学校の指導者と連携を行っています。

(2)強化選手の育成・強化

次年度には、最低でも「全国参加標準記録を突破でき

る者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の基準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができるだけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。11月から毎月1回の強化練習または強化合宿を計画し、取り組んでいます。また、昨年度からの継続で原田メソッドを導入し、それを岐阜独自のシステムを確立させ、新たな取り組みをスタートさせました。「目的・目標設定用紙」「ルーティーンチェック表」「日誌」「オープンウィンドウ64」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる原則、個人のやる気を育てるなど、原点に立ち返り、指導に当たることを重点として取り組み始めています。

(3)県内だけでなく県外の練習会に参加する。

県強化スタッフだけの指導に留まらず、県外の優秀な指導者に指導していただく場も入れております。

11月から始まった強化選手の育成・強化の取り組みでは、関東や近畿などに複数回練習会に参加しました。やはり全国レベルの高い選手との練習や優秀な指導者の考えを学ぶことで、選手だけでなく、指導者のレベルアップも図ることができます。強化スタッフが他県の強化練習会に参加したり、他県の駅伝強豪校と練習させてもらったり、強化を飛び越えて、さまざまな機会を設けて練習に意欲的に取り組む姿が見られました。また、課題でもある陸上競技を専門とする顧問がいない中学校の部活動も数多くあります。そういった顧問の先生にも強化練習会に積極的に参加してもらい、普段の部活動に生かしてもらおうと考えています。

3 今後に向けて

県強化スタッフを中心に、強化練習会や強化合宿を定期的に実施しながら取り組みを行っております。今回の原田隆史氏の研修会で学んだ事を指導者が各学校で実践し、指導者のレベルアップを図り、来年度も全国大会上位で活躍できる選手をこのチーム岐阜から育成したいと思います。

(委員長 吉田 靖)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

2018年度 総括

本年度の全国高校総体は、三重県伊勢市にある三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場で開催されました。県勢は6月に全国高校総体と同じ会場で開催された東海ブロック大会を勝ち抜き、男子16種目18人・女子4種目3人が、出場しました。

男子円盤投において山下航生選手(市岐阜商)は日本高校新記録で優勝しました。この種目では、17回大会の加治選手(長良)以来県勢54年ぶりという快挙でした。山下選手は、6月に地元開催で大いに沸いたアジアジュニア選手権大会の円盤投においても3位入賞、福井国体少年共通円盤投においては優勝を果たしています。

男子砲丸投では、昨年の大会で2位の稲福颯選手(市岐阜商)が予選から圧倒的な投てきをみせ、東海高校新記録で優勝しました。稲福選手も前述のアジアジュニア選手権大会男子砲丸投で5位入賞を果たしています。

男子110mハードルでは、多和田旭選手(大垣商)は準決勝で県高校新記録を樹立し、決勝で5位入賞を果たしました。多和田選手は続く福井国体少年共通110mハードル(U20規格)において13秒31のU20日本タイ記録、高校最高記録、大会新記録をマークしての優勝という快挙も果たしています。

この他の全国大会では、全国選抜大会において、山本麟太郎選手(美濃加茂)が110mハードルで4位入賞しています。山本選手は東海総体の八種競技において県高校記録を樹立しています。

U20およびU18日本陸上競技選手権大会においては、U20砲丸投で稲福颯選手(市岐阜商)が優勝、円盤投で5位入賞、さらに山下航生選手(市岐阜商)はU20円盤投において自身の持つ日本高校記録を更新して優勝しています。また、多和田旭選手(大垣商)はU20の110mハードルで3位入賞を果たしています。U18のカテゴリーでは野村颯太郎選手(関商工)が400mで7位、佐野史社選手(関商工)がやり投で7位となり来年の全国大会での活躍が大いに期待されます。

最後になりましたが、今年度の大会開催に際しまして、一般財団法人岐阜陸上競技協会・岐阜県教育委員会・岐阜県警察・岐阜南警察署・岐阜羽島警察署・毎日新聞社を初め多くの関係者の方々に多大なる協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

また、補助員を快く引き受けてくれた高校生諸君、また顧問の先生方の役員派遣にご配慮いただきました各校の校長先生に心より感謝いたします。今後とも陸上競技専門部の活動にご理解をいただきますとともに、ご支援を賜りますようお願いいたします。

(委員長 沖村 敏寛)



次号紹介

2019年7月初旬・下旬発行予定です

※2019年度9号より年間発刊1号となります

編集委員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	渡邊 宗治
土屋 雅敏	坂谷 幸紀	